

生物園に来たツシマウラボシシジミ の飼育下繁殖への挑戦

足立区生物園
水落 渚

生物園にきた経緯

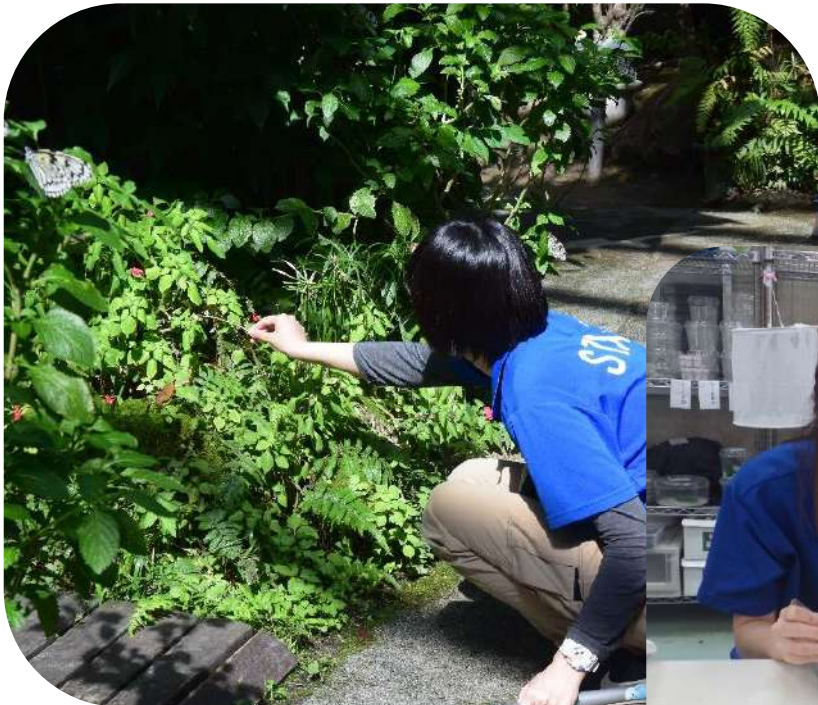
- 2013年8月に最後の数個体をチョウ類保全協会が保護
- 8月中旬にチョウ類保全協会から生物園に協力要請
- 9月上旬に生物園大温室に放チョウ後、8ペアの交尾を確認



2014年から生息域外保全モデル事業としてスタート

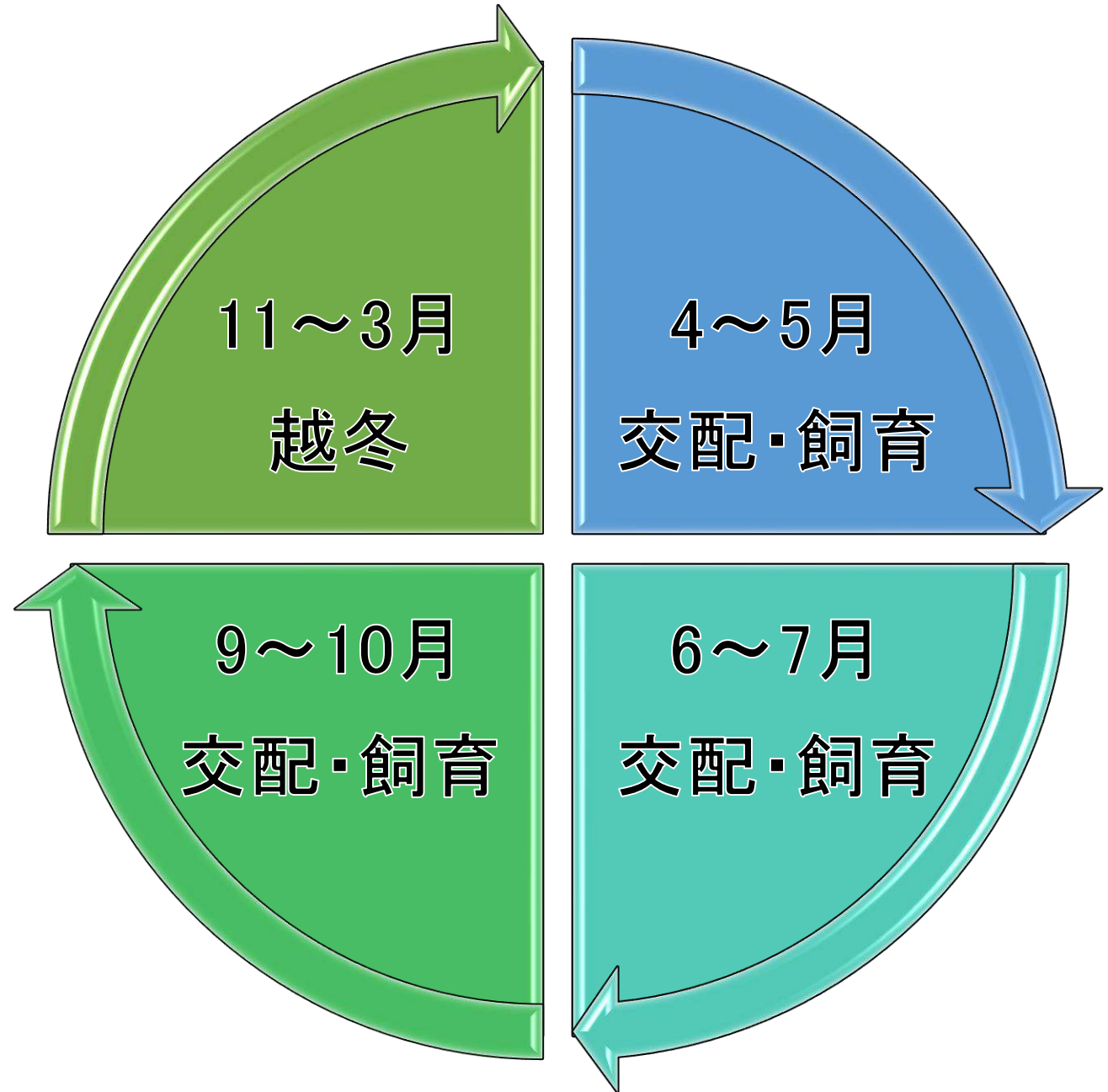
2014年春に本格的に始動！！

- 手のかかり具合が他の種類と比べて桁違い
- 絶滅するかもしれないという事実でかなりのプレッシャー



現在生物園では…

- 年に3回の交配、飼育を行っている
- 冬季には越冬させ、春から累代飼育を再開

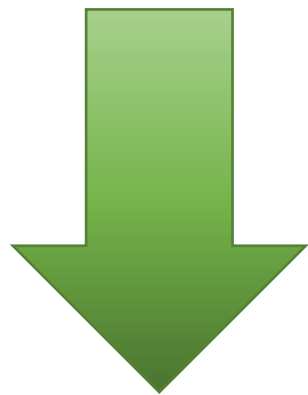




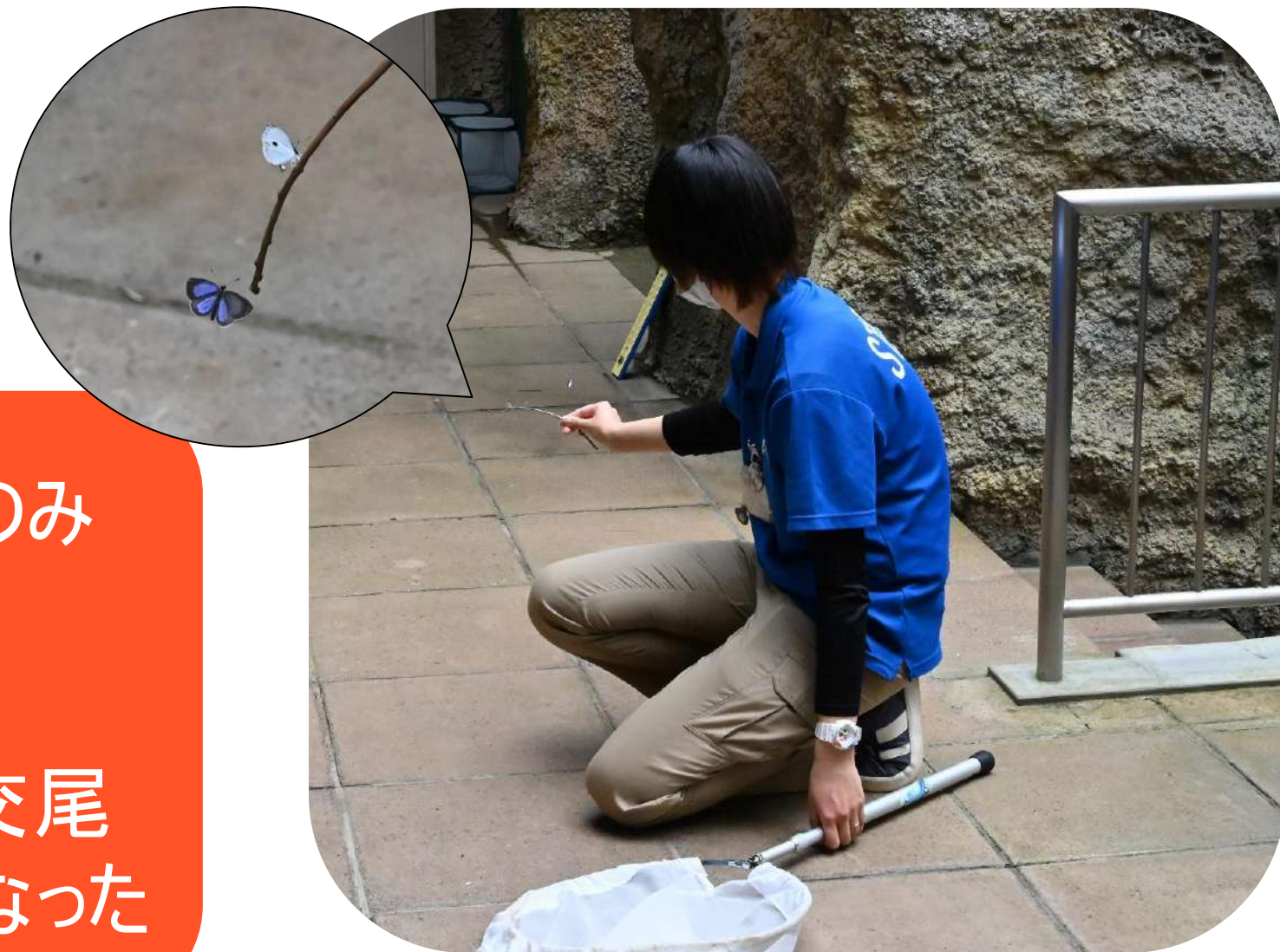
交配試行に大苦戦！！

- 当初はチョウ類保全協会と一緒に交配
- メスを棒に止まらせてオスに近づける形
- 大人数で一日中行っても2～3ペアが限界

とにかく交配を繰り返し、ひたすら観察！

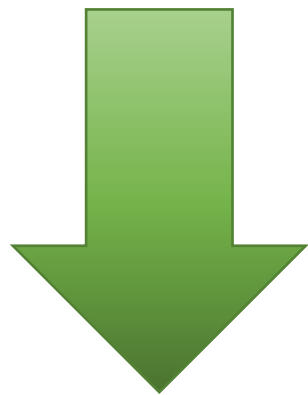


- 現在は生物園スタッフのみで交配
- 1人でも一日で数ペア交尾させることが当たり前になった

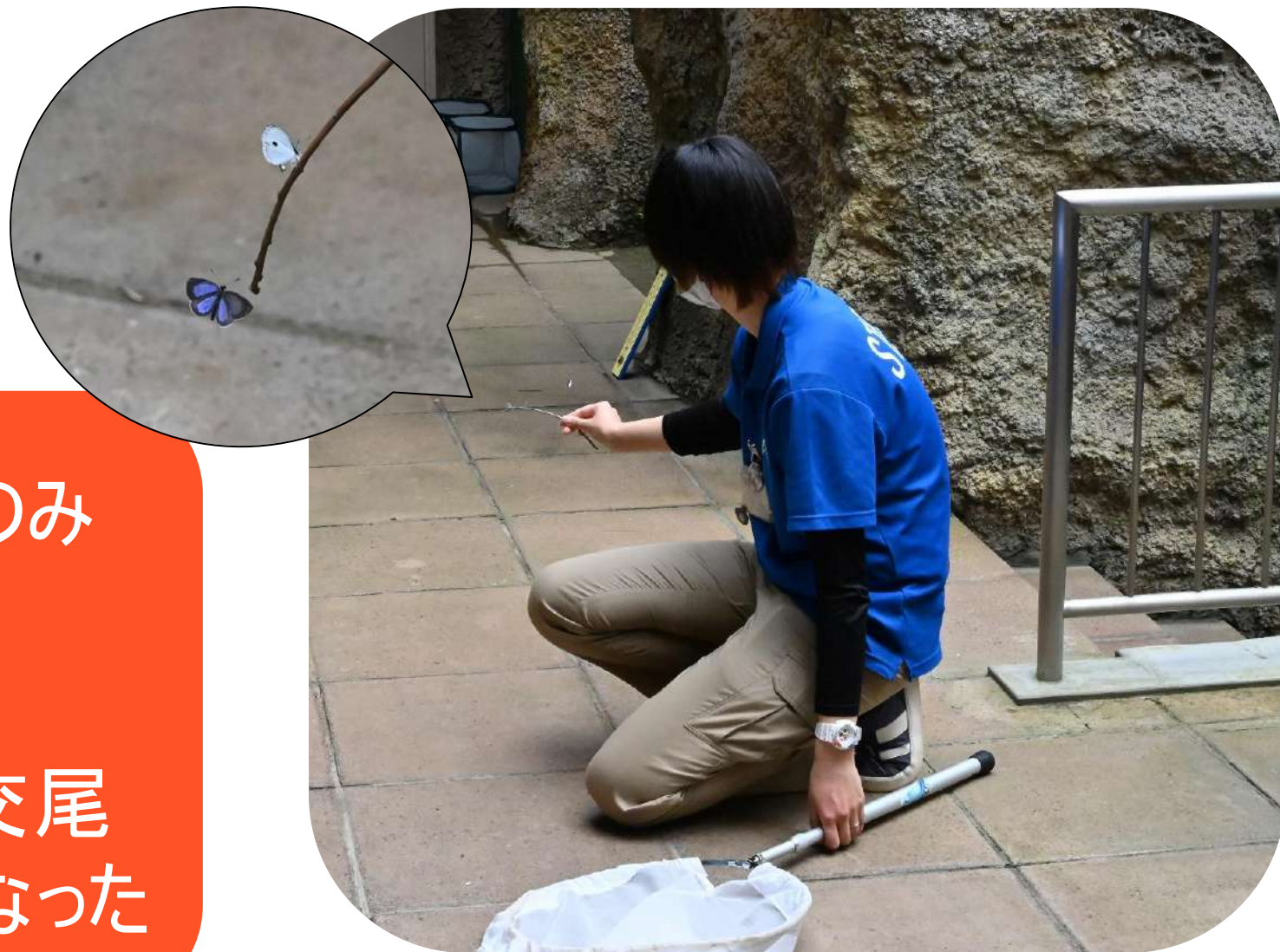




とにかく交配を繰り返し、ひたすら観察！



- 現在は生物園スタッフのみで交配
- 1人でも一日で数ペア交尾させることが当たり前になった

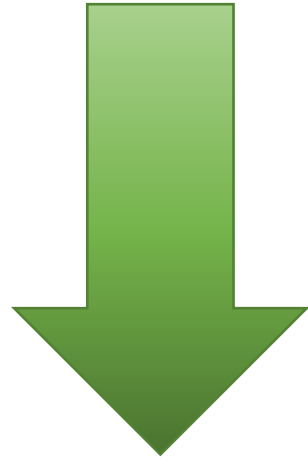


とにかく多い採卵・幼虫飼育！！

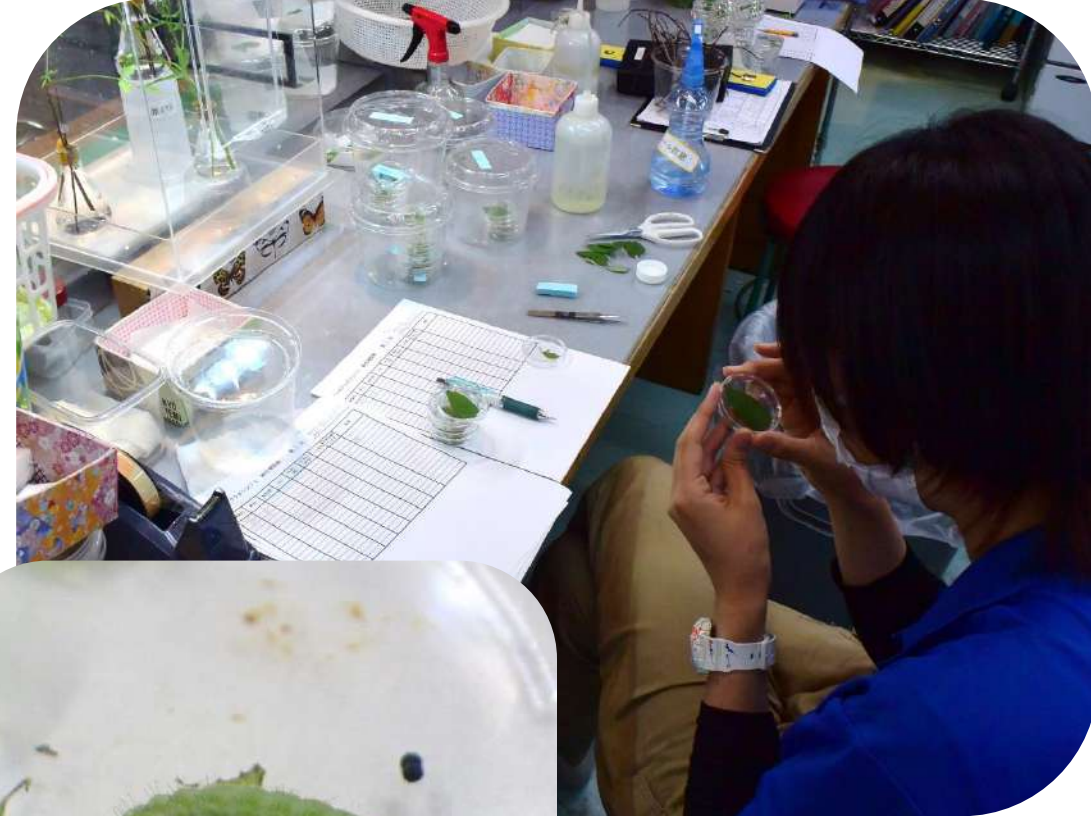
- 当初はとにかく飼育できるだけ飼育していた
- 共食いするためすべて個別飼育
- 飼育がとても繊細で神経を使う



ひたすら観察し、飼育方法と結果を記録！



- 現在は飼育方法がある程度確立した
- 飼育頭数を減らしても問題なく累代できるようになった

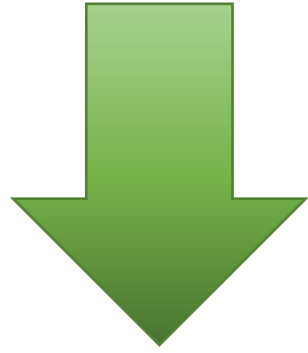


なぜかうまいかない越冬！！

- 生息域外保全開始から3年は越冬生存率35%を超えたことがなし
- 幼虫飼育と違い、ほとんど動かないためとにかく心配



越冬前とはにかく丁寧をモットーに飼育！
様々な場所、条件で越冬させて結果を記録！



- ここ2年ほどは越冬生存率70%以上をキープ
- 飼育条件を変えてもある程度の越冬生存率は保てるようになった



この取り組みを知ってもらうために！！

- 交配終了後にオスを大温室にて特別公開
- 飼育室ではメスの採卵を展示
- 解説パネルの設置や定期巡回時では来園者に生態の解説を行なう



- 本種が絶滅危惧種への興味や理解に繋がっていると考えている



生息域外保全のネットワーク！！

生物園

リスク軽減のため複数園館
で生息域外保全を行う

長崎
バイオパーク

箕面公園
昆虫館



新たに発生してきた課題！！

- 遺伝的多様性が少ない種とされている



近親交配をさせないための取り組み
→ 翅にマーキング



国内希少野生動植物種

ツシマウラボシシジミの特別公開

2022年

9月18日(日) - 9月23日(金) 9:30 - 15:00

※休園日を除く

足立区生物園で生息域外保全を行っているツシマウラボシシジミのうち、余剰個体は大温室内で一般向けに公開しています。

【識別マーキングについて】

展示個体の翅に調査用のマーキングをしている場合がございます。これは本種の生息域外保全に関する飼育管理や実験のためのものです。ご理解の程よろしくお願いします。

